

B 鑑賞 ア (ア) (4)、ウ、イ (ア) (4)							
音楽 I レポート		西洋音楽史 (古典派)		教科書 『高校生の音楽 I』		P.124 西洋音楽史 古典派① P.126 西洋音楽史 古典派② P.130 オーケストラ	
提出日	月 日	氏名		得点		評価	

① 「西洋音楽史」の「古典派①」(教 P.124) について、次の問いに答えよう。

1) 次の文章を完成させよう。[知]

(各 2 点=10 点)

(ア) 後期から古典派の時代にかけて、各都市では特色ある音楽文化が発達した。中でも (イ) はヨーロッパの中心地として栄え、ハイドン、(ウ)、ベートーヴェンなどが活躍した。音楽は分かりやすく感情に訴えるものが好まれるようになり、「ソナタ」「(エ)」「(オ) 四重奏曲」などの器楽曲が多くつくられた。

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	

(各 2 点=16 点)

2) ア～クの説明に当てはまる都市を①～⑧から選ぼう。[知]

①ロンドン ②パリ ③マンハイム ④ベルリン ⑤ハンブルク
⑥ウィーン ⑦ミラノ ⑧ナポリ

ア 1778 年に開場したスカラ座は、後にイタリア・オペラの中心地となった。
イ オーケストラの演奏技術を格段に進歩させた宮廷楽団があった。
ウ 16 世紀中頃に設立された音楽学校と宮廷劇場を中心に、多くの音楽家を輩出した。
エ ヴェルサイユを中心とした宮廷文化は、ヨーロッパの規範となった。
オ ハプスブルク家が宮殿を構え、ヨーロッパの政治、経済、文化の中心地として栄えた。
カ ヘンデルやテレーマン、C.P.E.バッハが活躍した交易都市である。
キ 外国人音楽家が活躍し、市民が音楽を消費する習慣が生まれた。
ク 宮廷音楽の催しが盛んに行われ、1742 年には宮廷歌劇場が開場した。

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	
キ	
ク	

② 「弦楽四重奏曲第 38 番 冗談」(教 P.125) について、次の問いに答えよう。

1) 曲についての説明として正しいものを次のなかから 2 つ選ぼう。[知]

ア 作曲したハイドンは、オーストリアに生まれ、ウィーン古典派の基礎を築いた。
イ 弦楽四重奏曲の楽器編成は、ヴァイオリン 1、ヴィオラ 2、チェロ 1 である。
ウ ハイドンは、エステルハージ家に楽長として仕えていた。
エ 愛称「冗談」の由来となったのは、この曲の第 1 楽章の終わり方である。

(各 2 点=4 点)

--	--

2) 第 1 楽章と第 4 楽章をそれぞれ聴いて、聴き取ったことや感じ取ったことを書こう。[主/思・判・表]

(10 点)

③ 「交響曲第 40 番 ト短調 第 1 楽章」(教 P.125) について、次の問いに答えよう。

1) 曲についての説明として正しいものを次のなかから 2 つ選ぼう。[知]

ア 交響曲というジャンルの作品であり、通常は 2 つの楽章からなる。
イ 作曲したモーツァルトはオーストリアに生まれ、ヨーロッパ各地を旅行した。
ウ この曲を含むモーツァルトの「三大交響曲」は、わずか 1 ヶ月半で作曲された。
エ 交響曲は、弦楽合奏によって演奏される。

(各 2 点=4 点)

--	--

2) 「オーケストラ」(教 P.130) を読み、説明として正しいものを次のなかから 2 つ選ぼう。[知]

ア オーケストラとは、弦楽器、管楽器、鍵盤楽器から構成される器楽の合奏形態である。

イ オーケストラの編成は、木管楽器の本数により「2 管編成」「3 管編成」と呼び分けられる。

(各 2 点=4 点)

ウ フルートは金管楽器で、Fl.と略表記される。

エ Euph.と略表記される楽器は、ユーフォニアムである。

--	--

3) 第 1 主題と第 2 主題のそれぞれの特徴に注目しながら音楽を聴いて、聴き取ったことや

感じ取ったことを書こう。[主/思・判・表]

(10 点)

④ 「西洋音楽史」の「古典派②」(教 P.126) について、次の文章を完成させよう。[知]

(各 2 点=20 点)

18 世紀のヨーロッパでは「(ア) 思想」が広まり、それに伴う社会の改革によって (イ) が政治的、経済的な力を強め、音楽文化の担い手も教会や (ウ) から (エ) 階級へと拡大していった。また、この思想は音楽の作り方にも影響し、分かりやすい音楽が好まれるようになる。ルネサンスから (オ) にかけて発展した (カ) から、旋律を (キ) で伴奏する (ク) が主流となった。

ヨーロッパの多くの都市では、(ケ) を聴衆にした公開コンサートが開かれるようになり、専用の (コ) が建築されるようになった。

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	
キ	
ク	
ケ	
コ	

(各 2 点=4 点)

--	--

⑤ 「交響曲第 9 番 第 4 楽章」(教 P.127) について、次の問いに答えよう。

1) 曲についての説明として正しいものを次のなかから 2 つ選ぼう。[知]

ア 歌われる歌詞は、詩人シラーの『歓喜に寄す』に基づいている。
イ 穏やかな序奏の後、第 1～3 楽章の主題が回想される。
ウ 合唱で「歓喜の主題」と「抱擁の主題」が、同時に歌われる部分がある。
エ 作曲したベートーヴェンはオーストリアで生まれ、主にウィーンで活躍した。

2) オーケストラ、独唱、重唱、合唱の組み合わせや、歌詞の内容と旋律の関わりに注目しながら音楽を聴いて、聴き取ったことや感じ取ったことを書こう。また、作曲者がどのような感情を込めようとしたのか考えたことを書こう。[主/思・判・表]

(18 点)